

教育・文化、スポーツ活動を支える充実した施設と歴史的背景

明治初期に入植した旧尾張藩土の子弟教育のために開設された「八雲学校」に遡る歴史を持つ八雲小学校は、平成25年全面改築により3階建ての新校舎が完成しました。町内の小中学校は児童生徒数の減少により複式校が多く、適正配置が今後の課題ですが、小規模校ならではの特色ある授業が行われています。

社会教育活動については、少年、青年、女性、成人、高齢者と各階層向けに様々な事業が実施されています。広い町域を有しながらも、協働のまちづくりに根ざした地域活動も活発で、生涯学習、生涯スポーツともに、町民にとって豊富な選択肢が用意されている町です。

特に青年向けには長年継続されてきた青年問題研究会などがあります。青年（団）活動に対する熱心な取り組みの背景には、開拓の祖・尾張徳川家が開設した徳川農場以来の人材育成を重んじる気風があります。道南北部で最大規模の図書館は地域の情報拠点として活用されており、移動図書館車の巡回（33カ所）や学校と連携して、子どもの読書活動を推進しています。

各種の町営スポーツ施設も充実しており、町民の利用はもとより、スポーツ合宿・大会の誘致にも積極的に取り組んでいます。平成25年度は28チーム、延べ2,475名（過去最高実績）が訪れています。



●幼稚園

町内には八雲マリア幼稚園と八雲幼稚園の私立2園がある。園児たちは芋掘り体験など様々な活動を行っている。



●新しい八雲小学校

柔らかな曲線でデザインされた3階までの吹き抜け空間があるホール。校舎内の内装仕上げ材の一部には八雲町産道南杉を使用。教室の黒板は児童が書きやすいように背の高さに合わせて上下可動する。玄関、トイレ、廊下はバリアフリー化されている。



●やくも学ジュニア検定

郷土に対する理解を深めることを目的とした、小学生対象のユニークなご当地検定。毎年多くの児童が参加している。



●相沼少年消防クラブ

相沼小学校児童で構成される相沼少年消防クラブは、昭和22年相沼地区で発生した大火を忘れないように防火活動に取り組んでいる。



●やくも少年少女ゆめ議会

町内の児童・生徒が、町長や教育長をはじめとする町幹部に対して、本番の議会さながら質問や提案を行う夢のあるイベント。



●熊石第二中学校の相沼奴

熊石第二中学校では八雲町無形文化財である相沼奴を総合学習の一環として取り組み、郷土に伝わる伝統芸能を次代に継承している。



●町民文化祭/落部地区

秋には八雲町文化祭、落部文化祭、熊石文化祭が、芸能部門、展示部門において行なわれ、町民の多彩な文化活動が披露される。



八雲陸上競技協会が主催して毎年6月に開催。2km、5km、10km、ハーフマラソン、車イスの各クラスがある。町外からの参加者も含め、第28回の平成25年は486名が出場。牛や畑を眺めながら、田園風景の中を爽快地駆け抜ける、八雲ならではのマラソン大会。



●やくもミルクロードレース



●北海道八雲高等学校

大正2年設立の旧制八雲中学が前身の八雲高校には普通科と実践的職業教育が行われている総合ビジネス科がある。



●八雲中学校吹奏楽部

町内のイベントをいつも盛り上げてくれる八雲中のプラスバンド。吹奏楽コンクール函館地区大会では地区代表選出の常連校。



●八雲町立図書館

道南北部地域では最大規模の蔵書数11万冊、年間入館者数約5万5,000人。視聴覚ホール(88席)での人形劇公演や文化講演会。ブックスタート事業や図書館フェスティバルなど多彩な事業を展開している。平成25年から蔵書WEB検索が稼働し、より利便性が高められている。



●運動公園/体育館・温水プール・野球場

運動公園には、ナイター照明設備完備の野球場・ソフトボール場とテニスコートがあり、隣接する総合体育館にはバレーコートが3面とれるアリーナ、小体育室(武道場)、トレーニング室などが完備している。隣接して温水プールがあり、25mプール、幼児用プール、ジャグジー、採暖室のほか、水中運動を行うための歩行用プール、アクアトレーナーなどを備えている。水泳教室も開かれ町民の人気の高い。



●町営スキー場

初級から中上級者向け3コース(コース長500m前後)を設置。山頂からは内浦湾が一望でき、ナイター照明・ロッジも完備。

●スポーツ公園/多目的グラウンド・陸上競技場

スポーツ公園には陸上競技場、多目的グラウンドなどがある。これらの利便性の高い運動施設や恵まれた自然環境に町外から訪れるスポーツ合宿・大会の利用が増えている。公園からはミルクロードにつながっており、ロードコースの起点にもなっている。

●インタビュー
白岩優拓さん
作曲家(国立音楽大学大学院音楽研究科博士課程在学中)
八雲で生まれ育ち、音楽の道に
平成25年度
の全日本吹奏楽コンクール課題曲に選ばれた祝典行進曲「ライジング・サン」を作ったきっかけは、3・11の東日本大震災でした。あの日は都内のコンサートホールでリハーサル中でした。突然大地震に見舞われて、開演前の観客とともに身動きがとれなくなっていました。テレビから映像が流れてきて悲惨な状況が分かるにつれ、私は音楽家として何ができるのかと考えました。そして、皆さんを励ますことができるようにと、このマーチを2年がかりで書き上げました。



八雲で生まれて、5歳からエレクトーンを始めました。八雲高校では吹奏楽部に所属しました。仲間と共に吹奏楽コンクールの函館地区代表をめざして練習に明け暮れていましたが、あと一歩のところまで及ばなかった。しかし、数年後には後輩たちが見ごと代表に選ばれました。八雲高校で吹奏楽と出会わなければ、私は音楽の道に進むことはなかったと思います。エレクトーンにしても吹奏楽にしても、八雲では音楽指導者に恵まれていました。高校のOBも熱心に指導に来てくれます。八雲町は小学校から音楽学習が活発です。八雲に帰って来ると落ち着いて創作活動に集中できます。八雲町の子どものために、多目的でもいいからコンサートホールがあるといいですね。身近で優れた音楽を聴いて刺激を受ける機会が増えます。町外からもコンサートを聴きに来るお客さんが増えて、町に活気が生まれると思います。